（別添3）　　平成　26　年度

1　自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4490100494		
法人名	医療法人　創寿会		
事業所名	グループホーム小野鶴　（ゆふ）		
所在地	大分県大分市大字小野鶴字植木1150の1		
自己評価作成日	平成27年1月13日	評価結果市町村受理日	平成２７年９月１５日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号
訪問調査日	平成27年1月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

①個人の意思や生活習慣を大切にする。
②職員のスキルアップ
③身体拘束0　※言葉による身体拘束に対しても

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

職員間の信頼関係があり、チームワークが取れて、利用所へ穏やかに対応できているため、利用者は落ち着いてゆったりとしている。
身体拘束をしないケアを実践しているとともに、職員のメンタルヘルスに」ついて学習し、前向きなケアに取り組んでいる。
重度化した方も安全に入浴できるよう機械浴槽を設置している。法人は地域の医師が理事となり立ち上げ、医療との連携がある。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる （参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある （参考項目：18,38）		1. 毎日ある
		○	2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている （参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている （参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
		○	4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている （参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている （参考項目：28）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている （参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている （参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
			3. たまに
		○	4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている （参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている （参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
		○	3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・管理者が、いつも職員に理念を示している。 ・職員は、理念に合ったケアが行えるよう具体的なケア方法等の話し合いを行っている。	理念は、管理者と理事（地域医療関係者）で作り、いつでも見えるところに掲示して、平素のケアに反映している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在は、利用者それぞれに合ったケアに重点を置いている為、地域との交流は行えていないが、3月に地域との交流を兼ねた「介護予防教室と餅つき大会」を企画している。	餅つき大会や夏祭り、敬老会など地域の方を招き交流を働きかけている。近隣に民家が少なく日常的な関わりは出来難い状況である。	地域には保育所・コンビニ・工場が点在し昼間は近所に住民がいない状態ではあるが、地域を巻き込む働きかけなど、職員や運営推進会議で話し合い、交流を図っていくことを期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・会議で受けた質問や要望、指摘等を次の会議に反映できるよう取り組んでいる。 ・今後は、地区の民生委員の方の多数参加を呼びかけて行く予定です。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・会議で受けた質問や要望、指摘等を次の会議に反映できるよう取り組んでいる。 ・今後は、地区の民生委員の方の多数参加を呼びかけて行く予定です。	民生委員児童委員や家族が参加して、入居状況や行事・リスクの報告を行い、改善について話し合っている。災害訓練を委員と一緒に行う計画をしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議を通して市職員や包括の職員から意見をもらいケアに反映している。	立ち上げ時から相談をしながら、グループホームとして必要なこと等アドバイスを受けている。ケア方法についても意見をもらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・身体拘束防止の会議を定期的に行うことにより、すべての職員が、身体拘束の内容（言葉による拘束を含む）と弊害を認識し、身体拘束のないケアに取り組めている。 ・また玄関は施錠しておらず、利用者家族が自由に出入りできるようになっている。 ・リスクに対しても入居前・入居後は、必要時に応じ、その都度家族と話し合いを行っている。	年に1回法人全体で研修を行い、身体拘束をしない介護や、身体拘束の弊害について学んでいる。また、毎月の合同会議や委員会で定期的に話し合っている。職員のメンタルヘルスの研修も実施して身体拘束防止に取り組んでいる。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	・定期的に会議を行い不適切なケアを行っていないかの確認を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・現在　成年後見人制度利用の該当者がいないため、勉強会等も行えていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・時間をかけて丁寧に説明を行っている。その際に、事業所でできる事・できない事をよく説明し、理解してもらっている。 ・ご家族・利用者様の質問に対しても迅速に対応し、納得していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・ご家族からの意見・要望に対して、その都度話し合いを行い運営に反映できるよう取り組んでいる。	家族の面会が多く、職員と気軽に話し、要望や意見を伝えている。聞き取った職員は、職員間で話し合いケアに取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・定期的に会議を行い、職員に意見・提案を反映できるよう心掛けている。 ・必要時、管理者も現場に入る事により職員の意見等を聞ける環境を作っている。 ・ただ本当の不満や苦情は言い難く、把握できていない点が多くあると感じている。	職員間で意見を出し合い、必要のことは実践に移している。会議などで出た意見は、管理者が委員会や理事会に提言し反映している。法人トップも2年ごとに交代し、意見が通りやすい仕組みとなっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・人員不足により職員の疲労感とストレスが溜まっている。管理者も頻繁に現場に行き、職場の悩み等を把握できるよう心掛けている。 ・年に1～2回メンタルヘルスの講師を呼び研修行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・外部研修の情報を収集し、職員それぞれに必要と思われる研修に参加できるように努めている。また、院内研修も設け職員が全員参加できるようにしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・現在行えていない。 ・今後は、学習会・連絡会等に参加していきたいと考えている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・事前面接時に、本人と十分に話し、希望や不安に感じていることを把握できるように努めている。 ・本人に了承、納得していただいてから入居していただくようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・家族と話し合いをして、困っている事、不安に感じている事を把握した上で、当施設に対して希望する事を確認している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・相談時に、ご家族・本人の思い・状況を確認し、現在必要と思われるケアを提案している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「職員は共に暮らす同士」の関係構築には、至っていない。 ・生活の中で、利用者の得意分野・興味のある事に関しては、積極的に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・利用者様の様子や変化は、その都度、ご家族に伝えている。 ・ご家族には、職員だけでは本人にとって満足のいく援助ができないことを理解していただき、職員・ご家族とが協力して援助していただけるよう心掛け手いる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・利用者全員に対しては行えていないが、ご家族に馴染の美容室に連れて行ってもらったり、友人、教え子等に連絡し、面会に来てもらっている。	隣接の老人保健施設から馴染みの友人が訪ねて来たり、訪問したりしている。また、面会が多く昔から親しい人との関係が続いている。美容院や行きつけの場へは、家族と協力しながら対応している。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・利用者間で、トラブルがあった際は生活環境を検討したり、関係修復に努めている。 ・夕食後は、利用者が集まり消灯まで、昔話をして過ごされていることが多い。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・現在行えていない。今後行えるよう検討している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・日々の関わりの中で、声かけを行い把握できるように努めている。 ・意志疎通困難の方は、本人の表情や家族の意見を参考に検討している。	利用開始前の状況や思いを家族・本人・関係機関より聞き取り、プランを作成している。入居後も本人と接しながらアセスメントを行い、思いや意向を把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・本人や家族と話す事で、把握に努めている。また、それを生活の中で生かせないか職員間で検討している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・入居期間の長い利用者に関しては、生活リズムの把握は行えており尊重できている。 ・今までできていた事が、できなくなっていた際、本人のプライドを傷つけてしまう恐れがある為、慎重に把握するように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・会議にできるだけ本人にの参加していただき、意見・要望を反映した介護計画を作成している。参加できない利用者に対しては、日々の関わりの中で本人と話して希望等を引き出し、反映できるようにしている。	入居時は2週間の暫定プランを作成し、再度モニタリングをして家族や本人の思いを反映したプランを作成している。6ヵ月ごとにカンファレンスをして職員・家族からも意見や要望を聞き取り反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・日々様子を記録して、必要な時は、その都度検討を行っている。職員は記録を読んでからケアに入るようにしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・現在は、一人ひとりのニーズに応えられる柔軟な対応はできていない。今後の検討課題になっている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・現在地域との協働はできていない。今後の検討課題となっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・事業所の協力医が、かかりつけ医になっている。その際、十分に説明し納得・同意をしていただいている。	地域のかかりつけ医が協力して立ち上げた事業所なので、協力医がかかりつけ医の方が多く、また、医療と連携していることで安心を求めて利用する方もいる。家族・医療機関・看護師と連携して情報を共有している。訪問診療やかかりつけ医の立ち寄りも頻繁である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・週4日、看護師1名が勤務している。 ・介護職は、利用者の状態変化があった際すぐに報告し、連携して対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・入院した利用者が負担なく戻ってこられるように、退院前より情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・利用者の状態が重度化する前に、ご家族に説明して対応の方向性を決めるようにしている。	入所時に医療内容やホームとして出来る事、できない事の説明をして納得した上で契約をしている。看取り指針や医療体制も整い、毎日の往診で体調管理や見守りができている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・消防署の協力を得て、救急救命法に勉強会を年1回以上実施している。 ・緊急時対応のマニュアルを作し、誰にでも見れる位置に掲示している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・年2回以上、避難訓練を実施している。今後は、地域住民との連携した訓練を計画予定。備蓄食は、隣接する。有料、老健と分散して保管している。	定期的な避難訓練や夜間想定訓練も予定している。地域消防団も巡回し、今後は地域を巻き込んでの訓練を計画中である。備蓄はホーム独自で準備している。	
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・援助を行う際、利用者が自己決定しやすいよう声かけを行っている。	個人情報保護や権利擁護など人権を含めた研修を行い、家族と一緒に認知症の理解と尊重した接し方など学んでいる。こだわりのある方に対しても尊重した対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・利用者一人ひとりに合わせた声かけを行い、自己決定ができるよう取り組んでいるが、利用者の希望に沿ったケアは行えていない。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・職員側の都合を優先されている場合が一日のうちに何度か見かけられる現状にある。「散歩に行きたい」「庭を掃除したい」等の訴えは、その都度対応できているが、検討していく必要がある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・本人のこだわっているスタイルの尊重はできている。化粧や毛染めをしている利用者はいないが、希望時には本人の好きなオシャレができるよう支援を行う。または、行えるよう検討していく予定です。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	・1日3食メニューは決まっているが、利用者の嫌いな品があった際には、個別に料理して献立を変更している。飲み物は、基本的にお茶だが希望に合わせてコーヒー等も提供している。	給食委員会で希望や摂食状態などを提言し、メニューを管理栄養士が作成している。食べ方や速度も個別に支援し、ゆっくりと食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・一人ひとりの体調と一日の摂取量の把握に努めている。必要時、かかりつけ医の指示を受け、個別に高カロリー食を摂取してもらっている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・毎食後に声かけや、必要時見守りにて各居室の洗面台にて口腔ケアを行っている。昼食を食べる前に職員と利用者で口腔体操を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・本人希望時、その都度トイレ誘導を行っている。定期的にパットの適正を検討し、本人に合った物を使用している。夜間は、オムツをしていても、希望時トイレ誘導を行っている。	トイレでの排泄を基本として、個別の排泄をチェックしてパターンを把握し、トイレ誘導をしている。食事やおやつ前後も誘導することで失敗しないようにし、夜間のみオムツを使用している方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・排泄パターンを確認し、坐薬等を使用せず、生活することができている。便秘時等は、かかりつけ医に相談し、ヨーグルト等を摂取して排便を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	・入浴日が決まっており、利用者の望む日にち、時間には対応できていない。今後の検討課題とする。	週3回ユニット内で交代で入浴し、日曜日以外は希望すれば毎日入浴が可能である。車いす利用者も機械浴で気軽に入浴でき、重度化した場合も清潔を保持できる準備がされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・夜間寝つけない方には、なるべく日中起きて活動してもらい、生活リズムを整えてもらうように努めている。また、寝つけない方に対して添い寝や落ち着けるよう軽い食べ物を食べてもらったりして様子をみている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・利用者一人ひとりが使用している薬の効果等は、それぞれの情報ファィルに綴じており、職員なら誰でもみれるようになっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・利用者それぞれの得意分野を把握しており、家事等を一緒に行ってもらっている。その都度、感謝の言葉を伝えている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・行事以外の外出は行えていないが、毎日、職員同行による散歩を行っている。	毎日の散歩を楽しんで、車椅子でもご近所に出かけるよう支援している。近くの公民館での花見や季節行事・ドライブなど計画的に出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・希望される方は、財布にお金を入れて持っている。高額に場合は、本人・家族とも話し合い、一部のお金を事業所が預かっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・希望される方には、携帯電話を持ってもらい自由に電話されている。家族から電話があった際には、取りつぎ話をしてもらったり、手紙が届き本人が読めない際は、本人の了承を得て職員が代読している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・季節を感じ都ることができる空間作りはできている。利用者家族より意見等があった際は、その都度検討し変更している。	天井が高く平屋造りでゆったりとして、くつろげる空間である。職員の特技を生かした手づくりの飾りや、季節を感じる花のアレンジや鉢植を配置し潤いがある。光が全体に差し込み明るく、眩しくないよう適宜調節に配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・一人になれる居場所の確保はできていない。今後の検討課題とする。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・入所時に、ご家族と検討し、本人にとって馴染みの物や愛着のある物準備していただけるよう井お願いしている。(例:写真アルバム・趣味の物・椅子等)	どの部屋からも季節折々の景色が眺められ、テレビやソファー、鏡台など持込み、好きな本を並べて生活を楽しんでいる。アルバムやお気に入りの椅子など家族との思い出も大切にしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・安全な環境づくり、自立した生活が送れる為の配慮は行えており、その都度検討をしている。		